

2019 年

人骨発見 30 周年記念

**フィールドワーク**

軍都新宿を歩く

～戸山ヶ原射撃場から陸軍軍医学校へ～

主 催 : 軍医学校跡地で発見された人骨問題を究明する会

連絡先 : 武蔵野市中町 3-6-21-103 (鳥居方)

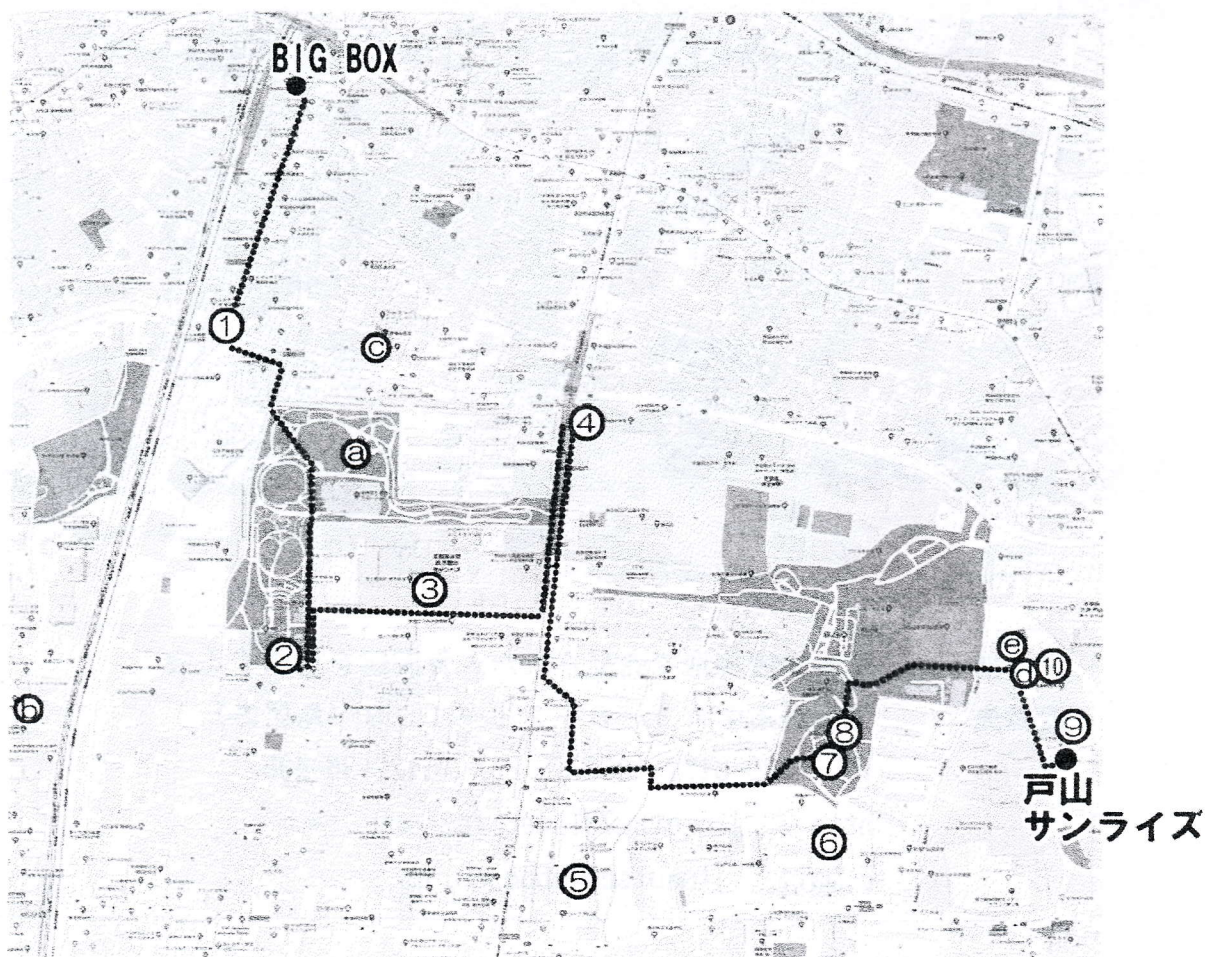
TEL 080-3157-1858 FAX 0422-36-4357

[http:// jinkotsu731.web.fc2.com](http://jinkotsu731.web.fc2.com)

E-mail jinkotsu@yahoo.co.jp

## コース JR高田馬場駅（BIG BOX前）→ 戸山サンライズ

- ① 諏訪通り（㊤戸山が原・㊦陸軍科学研究所・㊧諏訪神社）
- ② 陸軍境界石
- ③ 戸山公園大久保地区（大久保射撃場）
- ④ 学習院女子大学正門（近衛騎兵隊宿舎）
- ⑤ 戸山ハイツ（陸軍幼年学校）
- ⑥ 戸山公園箱根山地区（陸軍戸山学校・戸山軍楽学校・陸軍第一病院）
- ⑦ 戸山幼稚園（戸山学校将校集会所）
- ⑧ 箱根山（尾張藩下屋敷跡・軍楽隊野外ステージ）
- ⑨ 戸山公園多目的広場（陸軍軍医学校）
- ⑩ 国立感染症研究所（㊤人骨発見現場・㊦納骨施設）





## ① 諏訪通り

### ◎戸山が原

現在の戸山公園大久保地区と箱根地区一帯は、江戸時代は尾張藩の下屋敷がありました。明治維新後に政府に明け渡され陸軍軍用地となりました。

大久保地区側は主に砲撃・射撃訓練場として使用され、演習の無い時には現代の自衛隊の基地祭や米軍のフレンドシップデーのように近隣住民に開放され、ピクニック地になっていたとのことです。兵器を扱うことによる近隣住民への理解を求めるための気遣いがこの時代からあったということでしょうか。

### ◎陸軍科学研究所

兵器の基礎科学研究を行う機関として1919(大正8)年発足。東京砲兵工廠内に設置され、1922(大正11)年この地に移転しました。

1937(昭和12)年6月～12月に登戸実験場(現・明治大学生田キャンパス)へ移転。1939(昭和14)年登戸出張所と改称。更に1941(昭和16)年陸軍技術本部第九研究所に改称され、現在は【明治大学平和教育登戸研究所資料館】として当時の資料が公開されています。

(明治大学平和教育登戸研究所資料館ウェブサイト抜粋)

戸山の陸軍科学研究所では終戦時にイペリット・ルイサイト・青酸が保有されていましたが、終戦時に研究所構内で廃棄されたとのことです。同地は現在住宅地となっておりますが、1955(昭和30)年7月に、イペリット・ルイサイトの缶が発見されたということです。(環境省ウェブサイトより)

環境省ウェブサイトでは、旧陸軍が一般国民に対して化学兵器に関する知識を普及・啓発するために作成したという『化学兵器写真帳』<1934(昭和9)年発行>を閲覧できます。

[https://www.env.go.jp/chemi/](https://www.env.go.jp/chemi/gas_inform/historical/1934_photo.html)

[gas\\_inform/historical/1934\\_photo.html](https://www.env.go.jp/chemi/gas_inform/historical/1934_photo.html)



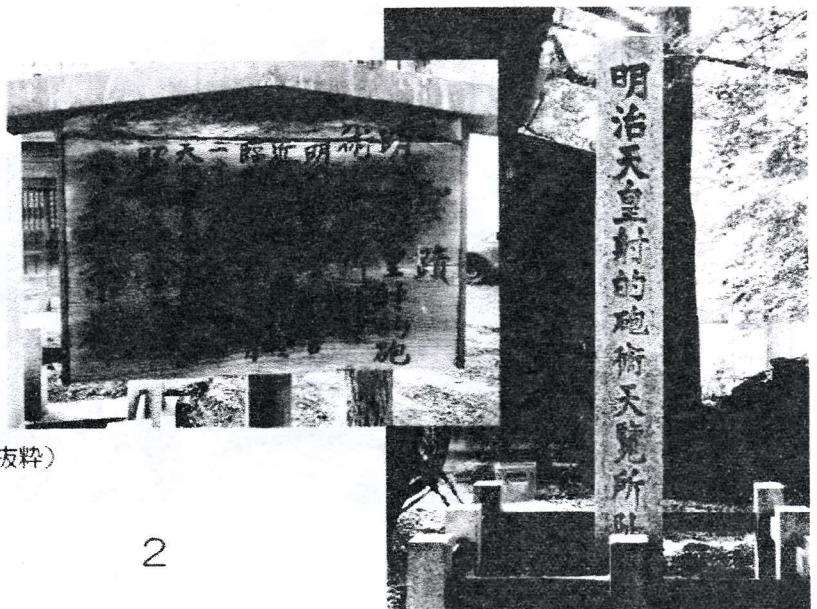
陸軍科学研究所は跡形もありませんが、近隣にある海軍軍人であった古賀喜三郎が設立した海城高校や、安田財閥によって神田に設立された後この地に移転した保善高校は戦前からこの地にありました。

### ◎諏訪神社

810年～820年(弘仁年中)小野篁朝臣が、大国主命、事代主命を祀ったのが起源とされています。

1882(明治15)年、11月29日に明治天皇による射的砲術の天覧があり、1943(昭和18)年に東京都より行幸史跡に指定されました。

(新宿諏訪神社ウェブサイト抜粋)





## ② 陸軍境界石

かつては陸軍軍用地であったことを示す境界石が、今も個人宅のガレージの土台にひっそりと残っています。

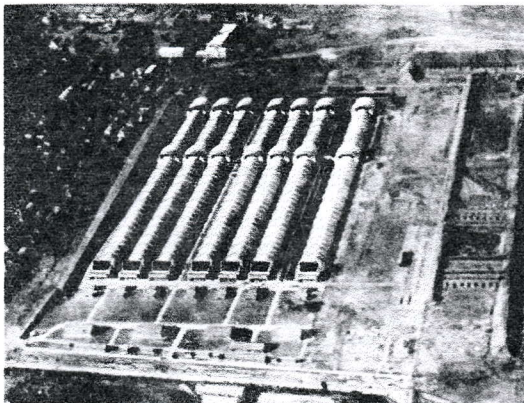
境界内は道路に沿って土手が築かれていたとのことで、現在でも一部が残されたままになっていて、かつては射撃場が建設される以前の古い砲弾が掘り出されることがあるそうで、現在もまだ埋まっているかもしれません。



## ③ 戸山公園大久保地区（大久保射撃場）

1874（明治7）年、戸山ヶ原と呼ばれたこの地区が軍用地となり、射撃演習場ができました。明治初期までは競馬場を備えており、前米国大統領グラント將軍の軟待に使用されたということです。

演習時の流れ弾が敷地外へ飛ばないように周囲には土手が築かれましたが、流れ弾や騒音被害による近隣住民からの苦情が寄せられるようになり、1927（昭和2）年、全長300mのコンクリート製のトンネル式射撃場7本の建設が始まり、翌年1928（昭和3）年竣工。当時は「東洋一」と謳われました。

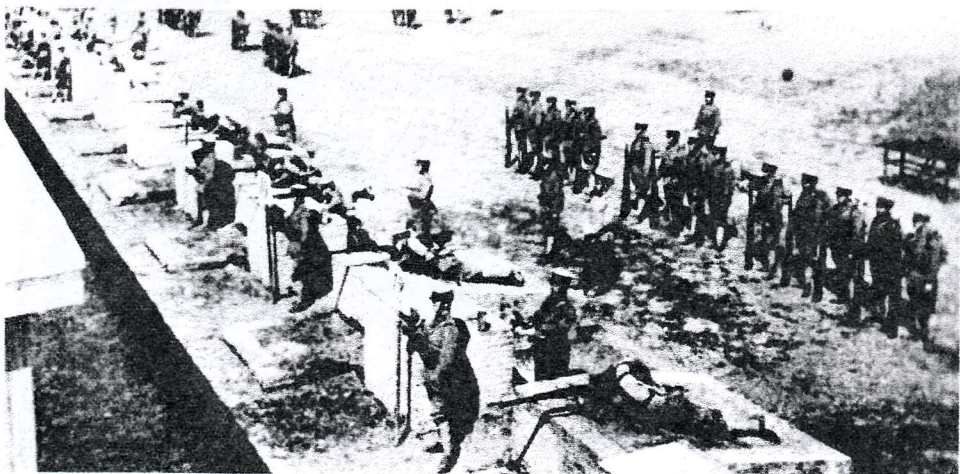


1928（昭和3）年 竣工直後の全景

太平洋戦争中は米軍の爆撃機B29による空爆を受けましたが、外壁は約50cmもの厚さのため崩落しませんでした。

戦後はGHQが接收し、朝鮮戦争中は演習に使用され、拡声器や実弾訓練による騒音に近隣住民は悩まされました。

1958（昭和33）年に変換後、早稲田大学理工学部校舎建設のため解体され、射撃場としての歴史に幕を下ろしました。



大久保射撃場での射撃訓練（市ヶ谷時代）

陸軍予科士官学校の訓練風景



#### ④ 学習院女子大学正門（近衛騎兵隊宿舎）

学習院は1877（明治10）年華族学校として神田錦町に開設され、正門は当時のお金で約3000円の費用をかけて江戸時代から鋳造で名高かった武州（現在の埼玉県川口市）で造られました。小学校教師や警官の初任給が8～9円、ベテラン大工の給料が20円という時代です。

1886（明治19）年、神田の校舎が火災で焼失した後一旦は鐘ヶ淵紡績株式会社のものになりましたが、その後1928（昭和3）年目白の学習院本院へ。

戦中の金属供出を免れ、終戦後の1950（昭和25）年にこの地へ移設。1973（昭和48）年に明治初期の鋳鉄製として国の重要文化財に指定されました。

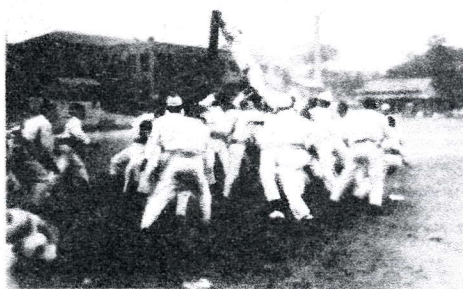
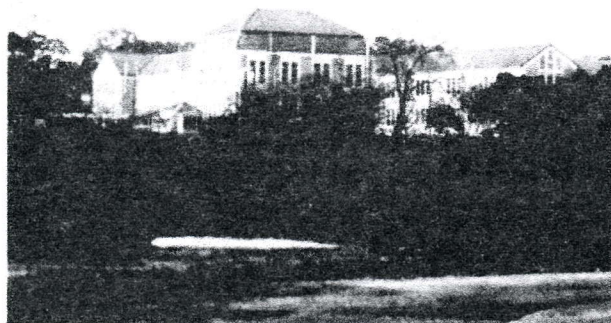
キャンパス敷地は1914（大正14）年から終戦までは近衛騎兵連隊の駐屯地となっており、兵舎（4号館）と炊事所が残されています。また、現在正門とされているキャンパス入り口は近衛騎兵連隊時代は裏門でした。

近衛師団は陸軍内から選抜された兵で組織された師団で、宮城（皇居）の護衛と儀仗のために設置され、1874（明治4）年、近衛隊が近衛歩兵第一・第二連隊として再編される際に軍旗が親授されました。4号館前には近衛騎兵連隊跡の石碑が建っています。

また、同敷地内には昭憲皇太后恩歌の石碑と、終戦直後に始業就業を告げるために天皇家から寄贈されたという鐘が設置されており、学習院と皇族の関わりの深さを伝えています。

#### ⑤ 戸山ハイツ（陸軍幼年学校）

現在戸山ハイツが立ち並ぶ戸山公園箱根山地区南西側には東京陸軍幼年学校がありました。1896（明治29）年陸軍地方幼年学校条例が交付されたことにより市ヶ谷台に設置され、一期生入校前に中央幼年学校予科と改称されましたが、1920（大正9）年再び東京陸軍幼年学校と改められ、翌1921（大正10）年この地へ移転。太平洋戦争の激化により1944（昭和19）年4月に多摩へ疎開移転しました。

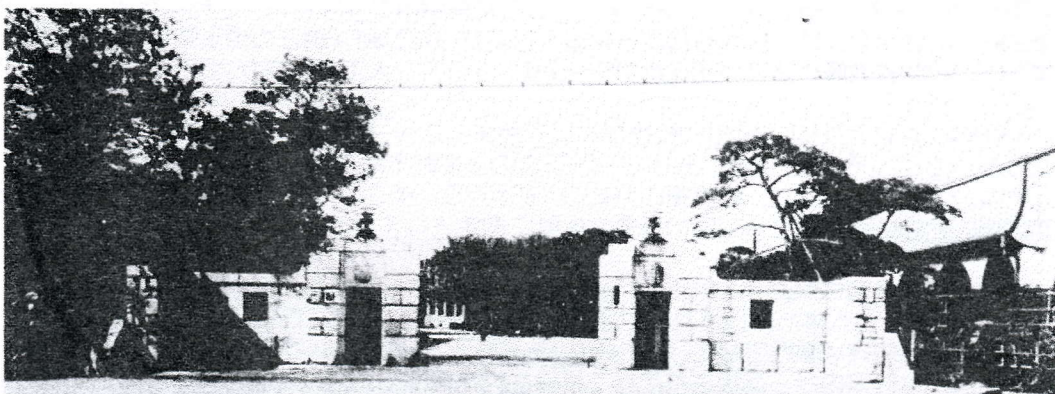


東京陸軍幼年学校生徒の集合写真（昭和10年）

終戦後1948（昭和23）年、同地は東京都が自然動物園と競技場の設立を計画するも、当時の住宅難を危惧したGHQが都に住宅地にすることを提案。1949（昭和24）年、水洗トイレ付き平屋の木造受託1053戸が建てられました。



## ⑥ 戸山公園箱根山地区（陸軍戸山学校・戸山軍楽隊・陸軍第一病院）

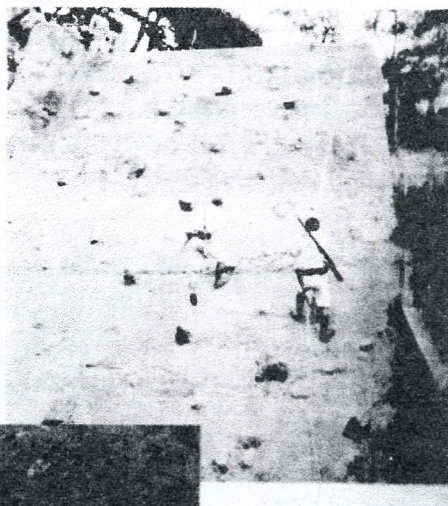


陸軍戸山学校正門

江戸時代は戸山山荘と呼ばれる尾張藩の下屋敷がありました。

戸山学校は1873（明治6）年、陸軍兵学寮戸山出張所を置いたのが起源で、1874（明治7）年戸山学校と改称し、上・下士官の育成が行われました。全国から候補者を入学させ、戦術・射撃・体操剣術などの教育を施して各連隊に戻すという、国内初の専門教育機関で、現場の指揮官を中央で教育して全国へ戻すというこのシステムは、各地の軍隊の水準を統一することに大きく貢献しました。

研修期間は約8ヶ月。当時教育を受けるものは「生徒」と呼ばれてきましたが、戸山学校では「学生」という呼び方が採用されました。更に『卒業式の歴史学』＜有本真紀著＞によれば確認できる資料の中で最も古い卒業式の記録は、1876（明治9）年、戸山学校で行われたもののことです。



応用体操、水流、城などの通過（竹筒利用）



経路訓練（土き堀）

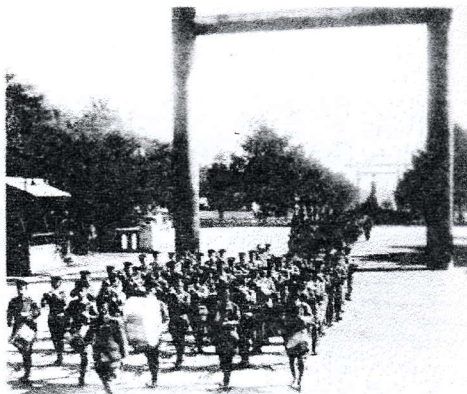


1891（明治24）年、敷地内に軍楽隊学舎が新築されました。軍楽隊は当初数個の師団に設けられていましたが、1923（大正12）年、軍縮のために戸山を残して廃止されました。

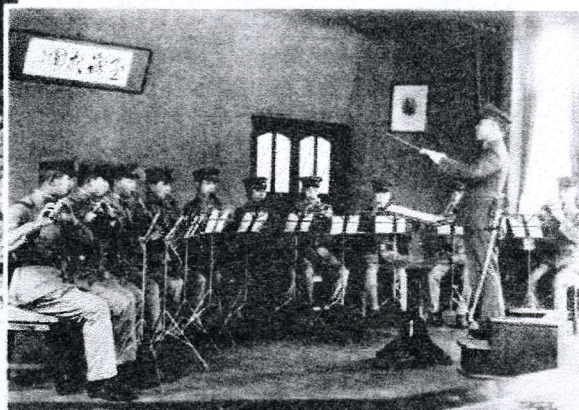
1944（昭和19）年10月東京音楽学校から、戦後に活躍した作曲家、團伊玖磨や芥川也寸志が入隊しました。



軍楽隊の練習風景



軍楽隊の市中行進



軍楽生徒の合奏

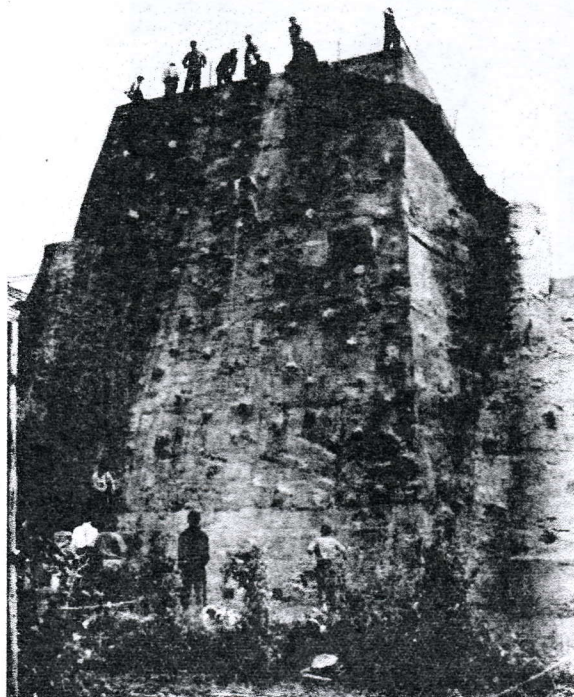
国立研究開発法人国立国際医療研究センターは、1871（明治4）年に創設された軍医寮附属の本病院が元になっており、その後東京衛戍病院、東京第一衛戍病院と名称を変え、この地に移転したのは1929（昭和4）年のことです。更に移転後東京陸軍第一病院、臨時東京第一陸軍病院と改められ、戦後のGHQ接收を経て厚生省へ移管されました。



1954年、第五福竜丸が米軍の水爆実験によって被曝被害に遭った際、久保山愛吉さんら4名の船員がこの病院へ収容されました。

病院1階コーヒーショップの隣には展示資料室があり、第7代、第12代陸軍軍医学校長を務めた森鷗外が使用したライティングデスクや第五福竜丸関連の資料が一般公開されています。

左）戦後、残された登攀訓練用施設で遊ぶ人々。  
＜毎日グラフ1957.6.30号より＞

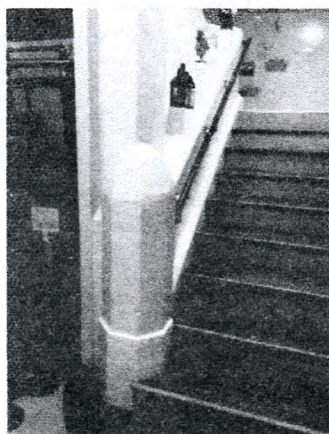




## ⑦ 戸山幼稚園（戸山学校将校集会所）

箱根山南側にある戸山幼稚園は終戦までは戸山学校の将校集会所でした。戸山ハイツ建設後の1950（昭和25）年、住民の心のよりどころとして教会に改築され、1952（昭和27）年、幼稚園が開園しました。地下のブロック造り部分はそのまま残されており、現在は園児たちの教室として使用されていますが、内部も床を一度削っただけで当時のままでです。

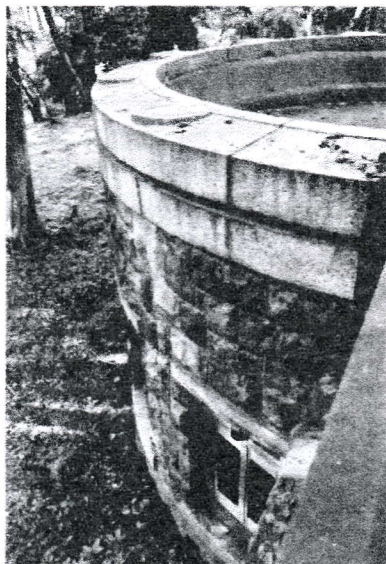
将校集会所時代は近隣の市ヶ谷大本堂からも将校が訪れて会議が行われたとのことで、昭和天皇が訪れた際に使用したと伝わるトイレがありますが、副牧師の話ではこのトイレは幼稚園として開園した頃には個室は残されていたものの既に手洗い場などの水場がどこにあったかも不明で、真偽はわかりかねるとのことでした。現在は倉庫として使われています。



上・右）階段内に残されている当時の将校が記したと思われる毛筆







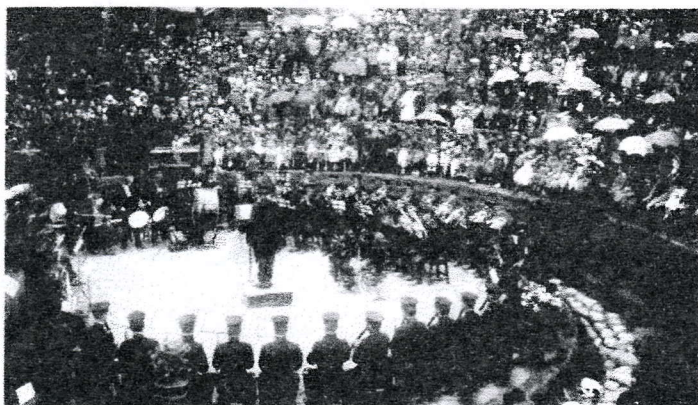
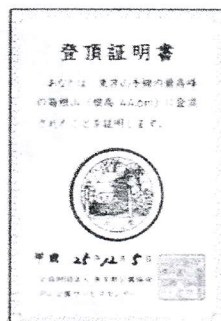
下) バルコニー部分は柱を切った跡があり、集会所時代は屋根がついていたようだ



## ⑧ 箱根山（尾張藩下屋敷跡・軍楽隊野外ステージ）

尾張藩の徳川光友が寛文年間（1661年～1673年）に、箱根山を中心に東海道五十三次に似せて造った、戸山荘庭園がありました。箱根山は庭園内に造られた人工池を掘った際に出た土を盛った築山で玉円峰と呼ばれており、高さは44.6m。山手線内側では最も標高の高い場所です。池泉回遊式庭園の中に25景をしつらえ、水戸家、小石川の後楽園と並ぶ名園だったと伝えられていて、現在も花見の名所となっています。

戸山公園サービスセンター（大久保地区内）では記念に登頂証明書を発行しています。



箱根山を東に下ると陸軍戸山学校記念碑があり、その正面斜面したの播鉢状の広場は、戸山学校時代は軍楽隊の野外ステージが設けられていました。

1943（昭和18）年3月完成。戦後1960（昭和35）年頃一旦撤去されましたが、戦中は気候のよい季節に一般市民を招いて

コンサートを開いていたということです。この風習は現在でも警視庁や消防庁の音楽隊によるランチコンサートに引き継がれており、都内では日比谷公園や西新宿のビル前広場などで開催されて誰でも無料で楽しめます。警視庁音楽隊の創設には戸山学校軍楽隊出身者が、消防庁は海軍軍楽隊出身者が関わりました。

現在残されているモニュメントは撤去後に改めて造られたものです。



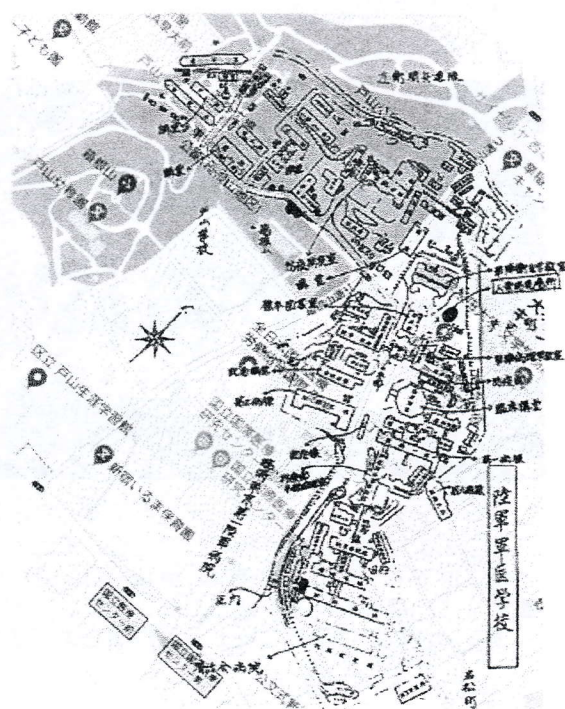
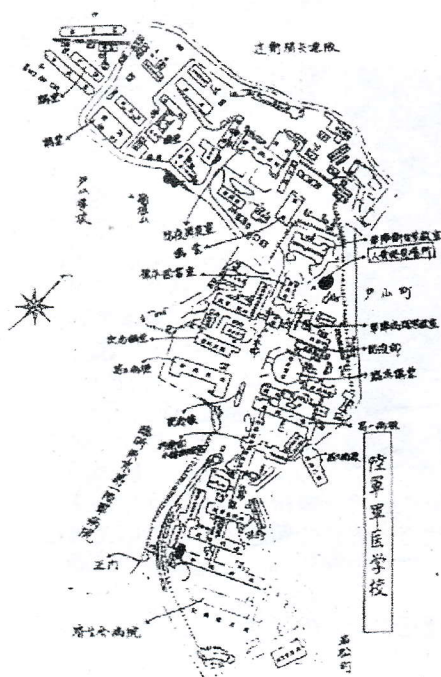
## ⑨ 戸山公園多目的広場（陸軍軍医学校）

1886（明治19）年医科大学卒業の軍医生徒に軍医特科の教育をすること、軍医部下士官に対し必要な学術を教育する、勤務を経た医官に最新の医学を教授するために陸軍軍医学舎を設立し、当初は陸軍省内の一部があてられました。1888（明治21）年麹町区富士見町に校舎が新設され、名称も陸軍軍医学校と改められました。1923（大正12）年、関東大震災により校舎本館は崩落しましたが学生に死者は無く、本館前庭に仮診療所を設けて患者の手当てを行いました。その後1929（昭和4）年、当時の名称で東京第一衛戍病院の敷地内に移転し、その年の11月、昭和天皇の行幸がありました。国立感染症研究所の敷地内にそれを伝える石碑があります。



昭和4年ころの学校全景

(時 6)



石  
半  
十  
世



## ⑩ 国立感染症研究所（㊤人骨発見現場・㊤納骨施設）

現在国立感染症研究所が建っている場所には、軍医学校時代軍陣衛生学教室がありました。

1989（平成元年）7月22日、敷地の再開発のための建設工事現場から大量の人骨が発見されました。近年のものではないことから、当初警察発表では「事件性は無い」との見解を示し、政府も早々の埋葬を希望していましたが、発見現場が731部隊を率いていた石井四郎が在籍していた陸軍軍医学校跡地であったことから関連を疑い、新宿区は調査を依頼しましたが、事態はすぐには進展しませんでした。



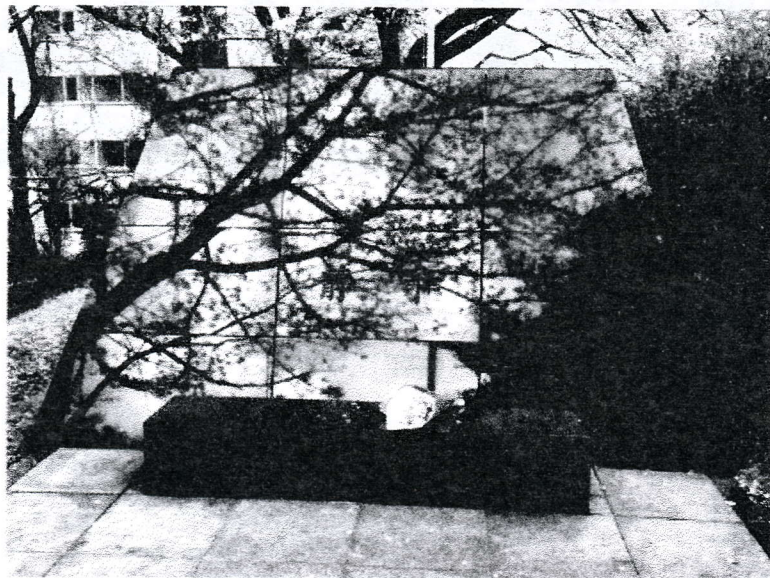
軍陣衛生学教室

膠着した事態の中、1990（平成2）年、【軍医学校跡地で発見された人骨問題を究明する会】が発足。新宿区の要請で1991（平成3）年、佐倉朔（さくらはじめ）札幌学院大学教授による人骨の鑑定が実現しました。

翌年1991（平成3）年3月まで続いた鑑定が公表されたのは同年4月22日のことで、結果は <1.土中経過年数10年以上100年以下 2.個体数は頭蓋骨だけで62体、全体ではおそらく100体以上 3.4分の1は女性で、未成年者も含む 4.モンゴロイド系の異質な人種が混在、一般的な日本人集団の無作為標本ではない 5.ドリルによる穿孔、鋸断、破切など人為的加工の痕跡 6.切創、刺創、銃創の痕跡 7.四肢骨の多くはいろいろな位置で意味不明の鋸断跡>というものでした。

その後地元住民らの署名運動などを経て、2000（平成12）年6月、政府は国立感染症研究所敷地内に人骨の保管施設を建てることを決定し、2002（平成14）年3月27日、納骨施設が完成し、納骨式には厚生労働省・国立感染症研究所関係者、人骨問題を究明する会、国会議員、新宿区議会議員ら約50名が出席しました。

『清和』と刻まれたその施設では、納骨式のあった毎年3月に職員による慰霊祭が行われています。



その後、軍医学校で働いていた元日赤看護師の女性の証言により別の場所にも人骨が埋められている可能性が浮上し、2011（平成23）年、戸山公園多目的広場側で、2012（平成24）年には若松住宅児童遊園跡地での発掘調査が行われましたが人骨は発見されませんでした。

以後、【軍医学校跡地で発見された人骨問題を究明する会】はこの問題の解明を求めて現在も活動を続けています。



